

## 問 白方小学校通学路の安全対策を

答 ガードレール等の対策を実施する



公明党  
おがさき ざとる 議員  
岡崎 悟

**問** 自動車が進道へ飛び込む事故が、各地で発生している。白方小学校通学路の原電線に、ガードレール等の設置を求める。①畑の耕作者への最大の配慮をしたうえで、可能なところからガードレールを設置するべきと考える。②原電線白方小学校入り口の信号待機場所が、朝の登校時に子どもたちで溢れる。より安全を確保するため、この場所を広げることができないか。③この待機場所に立つポストコーンは、車の侵入を止められないこと

から、その機能をもつものに代えるべき。村の考えを伺う。

**答** 次代を担う子どものかげがいのない命を、社会全体で交通事故から守る観点で、道路交通環境の改善は重要と考える。ガードレール設置や原電線白方小学校入り口の信号待機場所の拡張など、通学路の利用状況を学校や教育委員会、警察等と連携を図り調査把握を行い、通学路危険個所の安全対策を実施する。



ガードレールによる安全対策を求める

## 問 児童のSOSをどう受け止めるか

答 子どもたちの心に気づき救い上げる



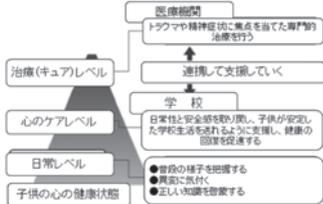
新政とうかい  
たけべ しんいち 議員  
武部 慎一

**問** 犯罪的いじめや、歪んだ家庭、生活環境による犯罪被害、思い込み等による事故、無差別に襲いかかる犯罪、児童の安全が十分に確保されていないと、難しい社会環境の下で、児童から大人に発信されたSOSが大人社会の事情で受け入れられず、取り返しのつかない状況に陥っている。この状況をどう考えるのか。子ども達のSOSを受け止めるのは、基本的には家庭。それ以外での社会との繋がりを育む学校生活では可能な限り、見て聞い

て対応いただきたい。

**答** 大切なのは学校職員が足を運んで安全を確認すること。子どもの発信するSOSを捉え、僅かな変化に我々大人が気づく感性が何より大切。子ども達の心の声を救い上げるところこそ教育の営み、一人一人の子どもの命を守り、希望を未来に繋ぐことになる。コミュニケーションスクールが、昨年度からスタートし、来年度にかけて全小学校で地域で一体となり、子どもたちの安全を守る体制づくりが大切。

ケアとキープ ～ 学校と医療機関の役割



学校における子どもたちの心のケアサインを見逃さないために(文部科学省 平成26年)健康観察や心のケアの進め方、メンタルヘルスの基礎知識、学校における日常から心のケアを進めていくための指導参考資料。